SAIJO

ライオンズクラブ国際協会 336-A地区2R4Z　西条ライオンズクラブ　広報誌

2023-2024
No. 555 9月号

ライオンズクラブは社会に奉仕する世界最大の団体です

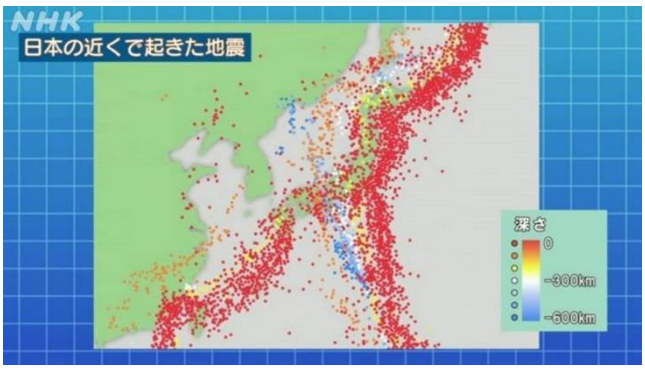
国際会長テーマ	「　WE　SERVE　」
メッセージ	「　Changing The World 」
336-A地区スローガン	「　地球を守る、人を護る　」
ガバナースローガン	「　市民のための社会奉仕　」
キーワード	「　全員参加の社会奉仕　」
会長スローガン	「　やるときゃ、やろうぜ！WE　SERVE　」
キーワード	「　初志貫徹　」

2023.7.27　防災講座を受けてきました

アラート委員会委員長　　日野克則

出射アラートチーム副リーダー

336A 地区アラートチーム副リーダー出射隆文様（高松フェックス LC 所属）が講師で来られるという事で、クラブアラート委員長の私と伊藤稔委員の2名が防災講座を拝聴しました。
出射さんは大学で地震を専門に研究しているスペシャリストです。
講演といっても対象者が小学生の防災学習のお話しだったという事で、わかりやすいお話でありました。



講座の中で国土地理院地図をパソコンで検索して、その場所にカーソルを持っていくと標高が出るそうです。
そこで「西条市の小学校で標高の一番低い学校はどこでしょうか？」と講師からの質問に誰も答えることが出来ませんでしたが、私は禎瑞小学校だと思いました。
しかし、講師の答えは多賀小学校、標高2メートルで一番低いということでした。
「あれ？？？」帰って調べてみました。ちなみに禎瑞小学校は 0.7mでした。
私の頭に残った話は南海トラフ地震が 40 年以内に 90%の確率で来るといってますが、上記の図から見ても本当にくるのか？本当は誰もわかっていないらしい！

防災講座の中で資料に「四国防災八十八話マップ」をいただきました。　⇒
これは四国防災八十八話・普及啓発研究会が企画し、徳島大学環境防災研究センターにより発行されたものです。
四国各地に残された災害に関する言い伝えや体験談がまとめられているものでした。

西条で起こった過去の災害について掲載されていました。

災害時には自助、共助、公助の協働で被害を防ぐこと　災害弱者の避難を的確に（愛媛県西条市）　68

平成16年（2004）の台風21号の時、西条市の水防本部で対応に当たった人の体験談です。
いままで経験したことがない大雨の中、西条市の水防本部の電話は鳴りっぱなしです。「道路が土石流で壊れて逃げ出せない」、「家の裏山から滝のように水が流れ出して、今にも山が崩壊しそうだ」、「家の前の川があふれて家の中に流れ込んでいる」などとせっぱ詰まった声で市民からの救援依頼が次々に飛び込んできます。未曾有の大災害です。
その中で谷の出口にある障害施設からの電話は深刻なものでした。「谷の沢水がものすごく増水している。今にも土石流が発生しそうだ。土石流に襲われたら施設の多くの入居者が犠牲になる。施設の担当者だけではどうにも避難させられない。一刻も早く助けに来て欲しい」とのこと。
「そうだ、あそこは確かに危険だ」ということで水防本部では、この電話を受けるやいなや消防団や地域の人たちにすぐに応援を求めました。そして、「土石流に襲われる前に何とかしなければ。とにかく間に合ってくれ」と天にも祈る気持ちで急いで救助に向かいました。
現場に着くと水は深いところでは、すでに胸の高さまで達しています。施設の入所者は恐怖で一様に青ざめて震えています。その人たち一人一人を背負っての危険な避難です。洪水の流れの中での避難は本当に怖く、泣き出す人が何人もいました。このような状況の中で施設の入所者に一人の犠牲者も出なかったのは奇跡としか言いようがありません。これはみんなが心を一つにして、困難に立ち向かったからだと心から思っています。

▲消防団による復旧作業（提供：西条市）

四国防災八十八話（第68話）掲載より抜粋
平成16年台風21号：2004年

第68話を読み、過去に我がクラブの災害救援活動が思い出されました。
2004年、第44代村上公明会長の年でした。毎年餅つきに訪問し、交流を図っていた施設に土石流が流れ込み施設は壊滅状態に。この時、たくさんのボランティアの方々と一緒に我がクラブからも有志を募り、施設へ向かったのです。これまで見たことのない状況でした。よくこんな状況で、犠牲者がでなかったものだと思いました。重機を持ち込み、施設に流れ込んだ大きな木を除去したり、長靴にスコップ持参でひたすら施設内に積みあがった土砂を外に運びだしたり・・・。その後、その施設は多くの善意で再開でき、今も我がクラブと餅つきで交流ができています。

台風被災の年、2004 年 12 月
「がんばれ西条！災害復旧チャリティー大会」と銘打ち、移動動物園やバザー、吹奏楽部演奏などでチャリティーバザーを行いました。
施設の方を招待し、餅つきをしたり、一日、楽しんでいただきました。

8月第2例会　外部卓話

テーマ　『 こども食堂の活動について 』
講 師　イマココこども食堂　代表　白石小夜様

イマココ子育て支援　より白石代表を講師に招き、「子ども食堂」のことを中心に活動状況やイマココ子育て支援の発足や経緯についてお話しいただきました。現在、イマココさんでは、月1回、西条市内で4つの子ども食堂を運営されているそうです。「子ども食堂＝子どもの貧困」と捉えがちですが、子ども食堂とは地域の子どもたちや保護者などを対象に食事を提供するコミュニティのことです。
その目的は、「地域交流の拠点」と「子どもの貧困対策」。
白石さんが代表を務めるイマココさんの活動は、地域の方々とのコミュニティの場として幅広い年齢層の人々を受け入れながら、孤食、命を守る、栄養、交流などたくさんの目的をもっています。
このような活動を行う為の資金は、助成金、補助金、そして地域の方からの寄付だそうですが、まだまだ不安定で十分な活動が行えるものには難しい状況だということです。地域、行政、支援団体が一緒になり、子どもたちを見守る輪が広がれば、もっと住みやすいい西条になることでしょう。ドネーション型の食堂やお弁当も作られていますので、利用するだけでも支援につながるそうです。大変勉強になりました。

スポーツ同好会主催
「　ボーリング大会　」

日時:2023 年 8 月 18 日(金)

会場:ナムコワンダーランド

ボーリング大会覇者　L. 日野克則

スポーツ同好会のスタート会にてボーリング大会に参加し優勝させていただきました。
ボーリングはもう何時したのか？全く覚えていません。東予のサンボール？まさかの新居浜のボールオオクラ？今回は自分でもびっくりのスコア―でした。ここ一番強い！が出てしまいました。(^^ゞ(笑)35年くらい前に 200 オーバーは出したことはありましたが、今回はそんな勢いでピンが倒れてくれました。11 月 26 日(日)には 2R 親善ボーリング大会が開催されますが、時の運に任せます。

ベトナム・ダナン・ホイアンの旅

L. 伊藤　稔

８月3日から7日まで、楽しみにしていたベトナム旅行に行ってまいりました。出発当日、案内役の方のパスポートが残り6ヶ月を切っていたために関西空港のカウンターでストップがかかりフライトができなくなるというアクシデントからスタート。途方に暮れたカルガモの子どもたち3匹(私と同行者2名)は、勇気をだしてベトナム航空に乗り込みました。目に飛び込んできたのは、ベトナム衣装のアオザイを着込んだ客室乗務員の方々でした。私の体と比べると随分と小柄でボデーラインが分かる服だけに男性にはお得感満載でした。頼みたくもない red　wine を何倍も男性客は、頼んでいました。

　関西空港からハノイ乗り換えでダナンに行くまでが大変でした。
だんだんと日本人らしき人が減り、中国語・ベトナム語が飛び交う中で私たち3人の内一人の荷物が待てどもベルトコンベアーに流れてきません。中を覗き込むも、もう荷物はすべて出し尽くしている様子・・・。次のダナン行きの搭乗時間までわずかしかなく、しかも第一ターミナルから第二ターミナルまでは、バスで移動しなければならず、距離もある。結局、私だけ先にゲートを出て荷物をかごに預け、しばらく出口で待つことにしました。出口には、迎えのベトナム人家族や中国人の方々がたくさんいました。残りの 2 名も空港の職員と押し問答した挙句、なんとか自分の荷物を探し当て合流できました。そんな大変な思いをした二人のことはつゆしらず、私は、一度出口に出ているものですから戻ることもできず、二人の動向もわからず、ただ自分の荷物が無事ダナン行きの飛行機に乗るのかどうかだけが心配で、バス停と反対方向に行く荷物ゲージについていく始末。最後には、どの航空便に私の荷物が乗っても仕方がないとあきらめました。

　今度は、ダナン行きのバス停までに行くまでがまた大変・・・。プラカードを持ったヤミタクシーのおやじたちが、ずらっと並んでこちらをにらんでいるではありませんか。結局、出口で胸にダナン行きのワッペンを張られていたのが功を奏し、怖いおじさんに声をかけられることもなく無事、航空便に間に合うことができました。ダナンまでの飛行機内では、真ん中座席に座りましたが、とても窮屈でした。左横の窓側に座るカンボジアへ帰国するおばちゃんが、「お兄ちゃんどこから来たの？」と話しかけてきます。
通路側の座席にはベトナム人の大学生。スマホと大きい画面 2 つで同時にゲーム中。違う内容をよくできるな・・・と感心しながら眺めていました。2 時間でようやくダナンに到着、ロビーでは、通訳のみんちゃんに会えてホットした行きの便の物語でした。

その日の夜は、モンゴメリーリンクスホテルでゴルフ場が目の前という立地条件で爆睡の夜でした。
　翌朝は曇りでした。直射日光を受けないように「ノンラ」という三角錐の帽子をかぶったキャディさんが、ワンツーマンでついてくれ、ハッスルするもスコア表のないゴルフで自由に芝生を駆け巡りました。
記念撮影をして、バンミーランチを食べ夜は、日本祭りをしているホイアンの西条・新居浜のベトナム特使をしている篠原君と面会し、激励しました。
トゥボン川の船から灯篭流しを体験しました。また、このホイアン港には、昔、豊臣政権時代に別子銅山の銅が、朱印船に乗ってホイアン港から王様に刀と銅が献上されていたというから驚きでした。
近くには、元、安倍総理の言葉の看板と朱印船の大きな模型がありました。
泊りは、Shining rriverside hoian でした。

日本とベトナムホイアン港を結んだ朱印船の模型

3 日目は、タイガービアを味わいました。
100 円という低価格、朝からお茶代わりに飲む始末です。しかし酔っているのかわからなくなるほど水っぽいビアでした。
土日のため、予定のダナン大学が休みで篠原君の派遣会社（日本へベトナムの人を派遣しています）HUB DaHang へ行き、日本語を学んでいる生徒さんたちと話し、握手をして別れました。
JAVICO の教育は、日本人でもできていない基本のマナーを標語にしていました。
ハン市場、ソンチャマーケットを見学して、ダナン泊となりました。
いよいよ明日は、ダナンマラソンの日となります。そもそも現地案内役の方が走る予定でしたが、出発目前で関空ストップになったものですから、代わりに同行者の中の1人（39 歳の若手社長）が出場することになりました。朝の 5 時にホテルを出て、6 時スタートです。10 キロを完全走破して感激のゴールシーンでした。

　余韻も冷めないうちに毎日、ランチを終えた後は、ベトナムマッサージを90分、最後の日は、ランナーも疲労困憊してたので 2 時間、全身表裏を 18 歳から 22 歳の女性が、背中に乗ったり、足ふくらはぎ首裏もんだり、日本では、考えられないくらいの極楽でした。この 3 日間のマッサージのおかげで体が楽になり、私の場合は、ベトナム人の 2 倍お肉があるので気が付いたら 2 人で汗だくでもんでました。少々笑いも聞こえたので、トドが寝てるくらいに思われたのかもわかりません。このような日程をスムーズに滞在できたのも篠原君、通訳みんちゃん、ドライバータクシの運転手さんがいたおかげでした。ちなみに通訳みんちゃんは、19 歳から 29 歳まで岡山大学に在学、大学院では経済学を勉強し、世界 17 ヶ国を旅したつわものでした。ドライバーさんは、元小学校の校長先生。外国人相手の方が、儲かるのかも。時給 300 円、月給 25,000 円の国としては、チップをはずんでくれる方が貯金に回せると通訳のみんちゃんは、話してました。北関東から進出しているダナンのリゾートホテルの社長は、37 歳。ボーイは、日本袴、玄関出迎えは、着物女性、忍者男性。貴乃花人形模型に五重塔、日本庭園。屋上プールでは、中国人が楽しんでいました。120 万都市とはいえ、6 割が 125CCバイク社会、1台のバイクに家族4人が乗っている様子には、びっくり。さらには小学生の男の子が原付バイクを運転していたので通訳に質問すると免許はいらないということで、2 度びっくりでした。社会主義共和国とはいえ、自由だな、と感じました。すべてを満喫して、来年、ダナンマラソン 5 キロコースに出る予定になってしまった私に読者の皆さん拍手をお送りください。
また、来年この原稿が書けることを楽しみに日々頑張ってまいります。
ご拝読ありがとうございました。

～カム・オン　ありがとう。～

西条ライオンズクラブ
会員募集中！

◎ライオンズクラブとは

世界最大の社会奉仕団体のことです。
世界で約 200 以上の国または領域にあり
49,000 を超えるクラブが存在し、130 万人以上の会員がいます。あなたも世界の一員になりませんか。

◎西条ライオンズクラブは

国内で 334 番目、愛媛県下では 9 番目のクラブとして結成されました。「We Serve～我々は奉仕する～」を合言葉におなじ志をもつ仲間同士が集まって奉仕活動を行っています。
人の為に、社会の為に、一人ではできないことを、出会いを通して集まった会員が力を合わせて、それぞれの地域において社会奉仕に貢献していこうという団体です。

第 23 回西条ライオンズクラブふれあい講演会
「熱き感動を求めて」 講師 山口良治 先生

京都市伏見工業高校ラグビー部を花園へ導いた伝説の監督「泣き虫先生」、ドラマ「スクールウォーズ」のモデルとなった先生のお話しに、聴講者一同胸を熱くしました。
［2005 年４月］

編集後記

夏も終わりますが、秋の気配が全く感じられない日々が続いています。9月も色々な行事があります。MC 広報委員会メンバーも、取材・編集に大変です。
今年は、アクティビティーやクラブの行事で面白い写真などのシャッターチャンスを狙っていきますので、
クラブ会員の皆様、ご協力よろしくお願いいたします。

MC・広報委員　曽我部克正

メンバーコラム

敬老の日によせて

L. 越智英明

今年も敬老の日がやってくる。自治会長さんがおめでとうございますと言って記念品を届けてくれた。
よかったら式典にも来てくださいとのこと。
コロナ禍で、しばらく途絶えていた「敬老会」。今年から再開するという。
卒寿、白寿なら本当にめでたいかもしれないが、今の自分はまだ体力的にも割と元気で（体重計には体内年令 65 才と表示）従って、年寄ばかりの集まりなど行く気は毛頭ない！
しかしである、改めて考えてみると、自分も、もうこんな年令に達したのか、と。
そういえば近所に住む友人、知人もしばらく見ないなあと思っていたら、いつの間にか身まかっている。夜中にふと目覚めた時、この先一体自分はどの様に老後を過ごそうか、とか、最近今後のことなどを家内と話し合ったことを思い出し、よけい寝つきが悪くなったりしている。そんな折、業界紙のコラムが目にとまったので紹介します。老人人口が多くなっている日本。「どうせこの先長くないのに、まだ生きていてごめんなさい」と、同居の家族などにどこかで疎まれている空気を感じながら生きている老人達も多いかもしれない。「さあ、飲みに行こうか」と・・・。
飲み仲間と、いつものように通って、いつものように飲んで、いつものように軽口をたたき、いつものような時間を過ごして、そして年を重ねてきた。思えばそれしかやってこなかった身である。気が付けば、あの声もあの顔も、もうないし、会うことがない。大きな穴ぼこが、心の中でぽっかり開いたまま。人生は出会いと別れというが、これからは別れが増え、やるせない思いばかりが積み重なってくるのだろう。
「友達が一人もいない」という人は、60 歳以上で 4 人に 1 人いるという。超高齢社会を迎え、長い老後をいかに豊かに過ごしていくか。「人生 100 年」の時代に生きる老人には否応なしに一人一人が、過ぎゆく時に委ねながら開いた穴ぼこを埋めていくしかない。
数少なくなった友人知人と、これからも思い切りしゃべって笑って酒を飲んでおきたい。後悔を残さないようにするためにも。残りの人生って何かわからないけど、長い人生生きてきて謝ることはないことだけは確かだ。ましてや老人であったって、おまけのような人生を生きる人なんていない。悲しい時は悲しい。
つらい時はつらい。幸せな時は幸せ。死ぬ瞬間まで真剣勝負が続いているのだ。
若い人たちも、ここに立ってみればわかる時がくる。

「醸界タイムス　商談・商話」より

「人間はいくつになっても新しいことを始められる」
森村誠一著「老いる意味」の一節より

発行者　会　長　日野克則
幹　事　植木光夫
［MC・広報委員会］
委員長／副委員長　山本新一郎／曽我部克正
編集委員　村上公明・日野　求・松本敏秀
例会日　毎月　第１・第３火曜日（12：30～13：30）
例会場　西条商工会館
発　行　西条ライオンズクラブ事務局
印　刷　プリントワールド ONO

西条ライオンズクラブ
〒793－0027　愛媛県西条市朔日市７７９－８
西条商工会館１F
TEL(0897)56－3980
FAX(0897)56－9251
E－mail　saijo-lc@abeam.ocn.ne.jp
ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ　http://saijo-lions.jp
facebook　http://facebook.com/saijo.lions/